

病虫害発生予察指導情報

(ナシ黒星病)

平成27年4月15日

鳥取県病虫害防除所

1 情報の内容

4月以降、降雨日が多く、ナシ黒星病の発生を助長する気象条件となっています。開花始めの防除ができなかった場合や防除間隔が長くなる場合は追加の薬剤散布を行い、本病の防除を徹底しましょう。

2 情報の根拠

- (1) 4月上旬以降、ナシ黒星病の発生を助長する気象条件で経過しており、今後の本病の発生量はやや多いと予想される。
- (2) 4月上旬以降、降雨日が多かったため、開花始めの防除ができなかったほ場が散見される。また、向こう1週間の気象もやや不順に経過すると予想されているため、落花期までの防除間隔が例年より長くなると見込まれる。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 二十世紀では各地域の防除暦に従い、人工授粉終了後の防除を徹底する。
- (2) その他の品種(赤ナシ、ゴールド二十世紀等)で、開花始めの防除ができなかった場合や開花始めから落花期までの防除間隔が長くなると見込まれる場合は、人工授粉終了後にフロンサイドSC2,000倍液、ベルコートフロアブル1,500倍液、有機銅水和剤(キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル)1,000倍液のいずれかを追加散布する。なお、昨年、黒星病が多発したほ場で開花始めのEBI剤の散布ができなかった場合は、上記の薬剤に替えて人工交配終了後にEBI剤を必ず散布する。
- (3) 黒星病の芽基部病斑は、見つけ次第花そうごと切除し、園外に持ち出して処分する。